

資料編

1 景観計画検討委員会

(1) 景観計画検討委員名簿

区 分	氏 名	備 考
委員長	小浦 久子	大阪大学大学院准教授
副委員長	工藤 和美	明石工業高等専門学校准教授
委 員	上杉 和央	京都府立大学准教授
委 員	小南 正雄	但馬県民局豊岡土木事務所
委 員	西村 肇	但馬豊岡観光協議会
委 員	宮本 盛雄	豊岡商工会議所
委 員	福岡 隆夫	豊岡市商工会
委 員	江尻 繁	農会長連合会役員会
委 員	四角 澄朗	市民
委 員	長田 幸子	市民
委 員	大岡 夫美子	市民
委 員	森 朋子	市民
委 員	土野 礼子	市民
委 員	大石 雅代	市民

(2) 景観計画作業部会委員名簿

区 分	氏 名	備 考
部会長	工藤 和美	明石工業高等専門学校准教授
副部会長	小浦 久子	大阪大学大学院准教授
委 員	上杉 和央	京都府立大学准教授
委 員	坂本 裕	市民
委 員	古田 清久	市民
委 員	井上 哲郎	市民
委 員	三宅 徹	出石総合支所地域振興課総務係
委 員	和田 真由美	防災課防災係
委 員	多田 満	都市整備課景観政策係
委 員	中井 千尋	大阪大学 大学院生

2 景観計画策定の経過

開催日	場 所	検 討 内 容
平成 23 年 3 月 1 日	豊岡市役所	第 1 回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長、副委員長の選出 ・ 景観計画策定の概要
平成 23 年 4 月 26 日	豊岡市但東総合支所	第 1 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 風景の捉え方について ・ 市全体の風景特性について
平成 23 年 6 月 3 日	日高農改センター	第 2 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内小学校の校歌について ・ 市の地形特性について ・ 各地域の特性について (文化財審議委員より説明)
平成 23 年 7 月 26 日	城崎健康福祉センター	第 3 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観特性の整理について ・ 今後の進め方について 城崎まちづくり団体ヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の課題について
平成 23 年 8 月 31 日	豊岡市竹野総合支所	第 4 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地景観について ・ 景観計画の構成(案)について
平成 23 年 9 月 30 日	豊岡市民会館	第 2 回検討委員会・第 5 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画策定のスケジュールについて ・ 作業部会報告について ・ 景観計画の構成について ・ 「豊岡、風景のものがたり」作品審査
平成 23 年 10 月 23 日	豊岡市民プラザ	とよおか景観フォーラム 2011 出石まちづくり団体ヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の課題について
平成 23 年 12 月 2 日	豊岡市出石総合支所	作業部会委員ヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観形成を推進するための仕組みづくりについて
平成 23 年 12 月 27 日	じばさん但馬	第 6 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画素案について ・ 豊岡中心市街地の景観について
平成 24 年 2 月 3 日	豊岡市民プラザ	第 7 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画素案について
平成 24 年 4 月 3 日	豊岡市日高総合支所	第 3 回検討委員会・第 8 回作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画素案について
平成 24 年 7 月 13 日	豊岡市役所	第 4 回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画案について

3 市民アンケートの結果

(1) 調査の目的

豊岡市は、平成 16 年に制定された「景観法」に基づき、良好な景観の形成を促進するため、美しく風格のある都市の形成、潤いある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力のある地域社会の実現を図る計画として「豊岡市景観計画」の策定に反映させるため、市民に景観形成についての考えや意見を把握することを目的としアンケート調査を実施した。

(2) 調査 豊岡市全域

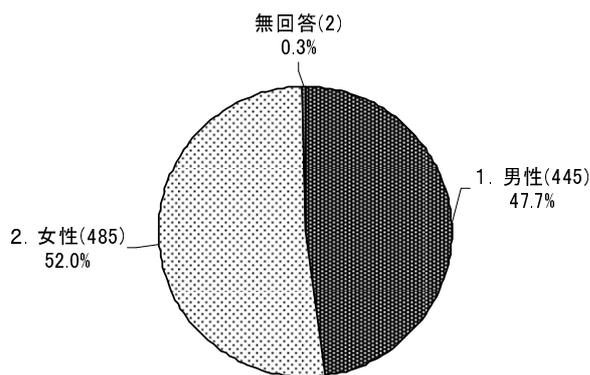
調査対象者	豊岡市内在住の満 18 歳以上の男女、3,000 人
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成 22 年 11 月 9 日(火)～11 月 29 日(月)
調査方法	対象者本人記入方式の調査票調査
配布・回収	ともに郵送による
配布数	3,000 件(配布総数:2,916 票 宛先不明等による返送)
回収数	932 件(回収率 32.0%:932 票/2,916 票)

(3)調査結果

1)性別

アンケート回答者全体の性別に対する回答は、“女性”が52.0%、“男性”が47.7%となっています。

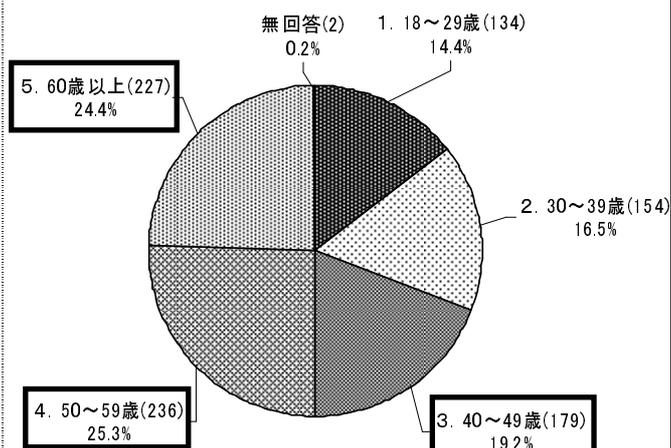
総人口比でも、女性が若干多いことから、概ね人口比に即した結果といえます。



N=932

2)年齢

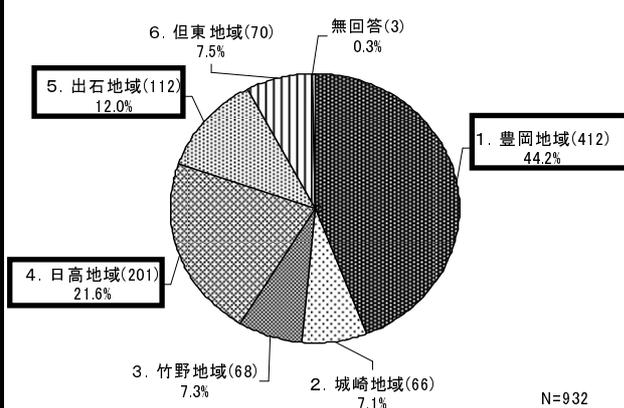
アンケート回答者全体の年齢に対する回答について、年齢構成で最多を占めるのは、“50～59歳”の25.3%であり、次いで“60歳以上”の24.4%、“40～49歳”の19.2%となっています。



N=932

3)居住地

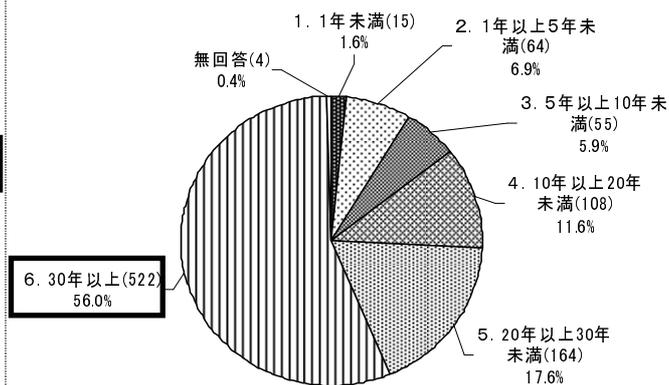
アンケート回答者全体の居住地に対する回答は、“豊岡地域”が44.2%と全体の40%以上を占め、次いで“日高地域”21.6%、以下“出石地域”12.0%、“但東地域”7.5%、“竹野地域”7.3%、“城崎地域”7.1%となっています。



N=932

4)居住年数

アンケート回答者全体の居住年数に対する回答は、“30年以上”が56.0%と過半数を占めている。次いで“20年以上30年未満”が17.6%、以下“10年以上20年未満”が11.6%となっています。



N=932

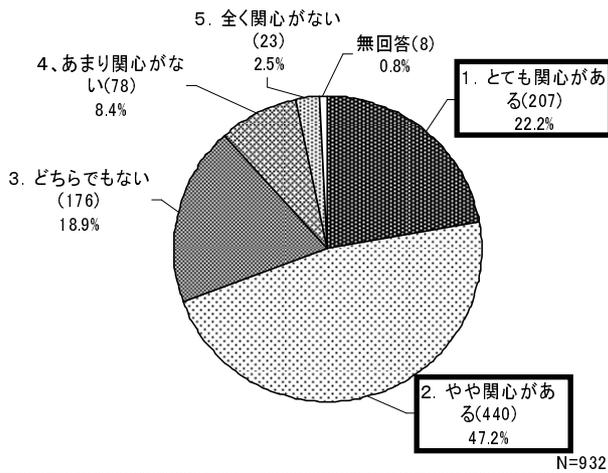
5) 豊岡らしい景観を守り育てることへの関心

アンケート回答者全体の豊岡らしい景観を守り育てることへの関心については、“やや関心がある”が47.2%と最も多くなっています。

次いで“とても関心がある”が22.2%、以下“どちらでもない”18.9%、“あまり関心がない”8.4%、“全く関心がない”2.5%となっています。

“とても関心がある”および“やや関心がある”を合計すれば、約70%が景観について感心を持っていることがわかります。

地域別では、城崎地域の“とても関心がある”が他の地域と比較して10%以上高い傾向を示しています。



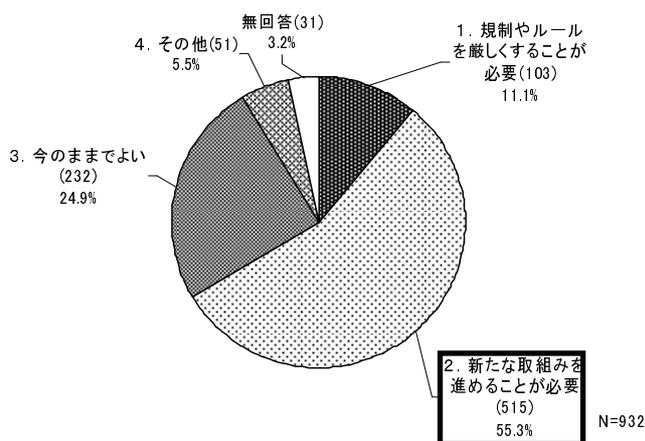
	調査数	とても関心がある	やや関心がある	どちらでもない	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	932	207 (22.2)	440 (47.2)	176 (18.9)	78 (8.4)	23 (2.5)	8 (0.9)
豊岡地域	412	83 (20.1)	212 (51.5)	73 (17.7)	34 (8.3)	9 (2.2)	1 (0.2)
城崎地域	66	25 (37.9)	22 (33.3)	10 (15.2)	8 (12.1)	1 (1.5)	1 (1.5)
竹野地域	68	17 (25.0)	29 (42.6)	14 (20.6)	6 (8.8)	1 (1.5)	2 (2.9)
日高地域	201	48 (23.9)	89 (44.3)	42 (20.9)	14 (7.0)	6 (3.0)	2 (1.0)
出石地域	112	20 (17.9)	56 (50.0)	22 (19.6)	10 (8.9)	4 (3.6)	1 (0.9)
但東地域	70	13 (18.6)	32 (45.7)	15 (21.4)	6 (8.6)	3 (4.3)	1 (1.4)
無回答	3	1 (33.3)	0	0	0	0	2 (66.7)

■ 全体と比較して5%以上高いもの
 ■ 全体と比較して10%以上高いもの

6) 景観をつくっていくためのルールづくりの必要性

アンケート回答者全体の景観をつくっていくためのルールづくりの必要性に対する回答は、“新たな取組みを進めることが必要”が55.3%と過半数を占めています。

次いで“今のままでよい”が24.9%、“規制やルールを厳しくすることが必要”が11.1%となっています。



	調査数	規制やルールを厳しく	新たな取組みを進める	今のままでよい	その他	無回答
全体	932	103 (11.1)	515 (55.3)	232 (24.9)	51 (5.5)	31 (3.3)
豊岡地域	412	50 (12.1)	234 (56.8)	98 (23.8)	19 (4.6)	11 (2.7)
城崎地域	66	8 (12.1)	36 (54.5)	19 (28.8)	1 (1.5)	2 (3.0)
竹野地域	68	8 (11.8)	35 (51.5)	18 (26.5)	4 (5.9)	3 (4.4)
日高地域	201	26 (12.9)	109 (54.2)	45 (22.4)	12 (6.0)	9 (4.5)
出石地域	112	7 (6.3)	62 (55.4)	34 (30.4)	7 (6.3)	2 (1.8)
但東地域	70	4 (5.7)	39 (55.7)	18 (25.7)	7 (10.0)	2 (2.9)
無回答	3	1 (33.3)	0	0	1 (33.3)	2 (66.7)

■ 全体と比較して5%以上高いもの
 ■ 全体と比較して10%以上高いもの

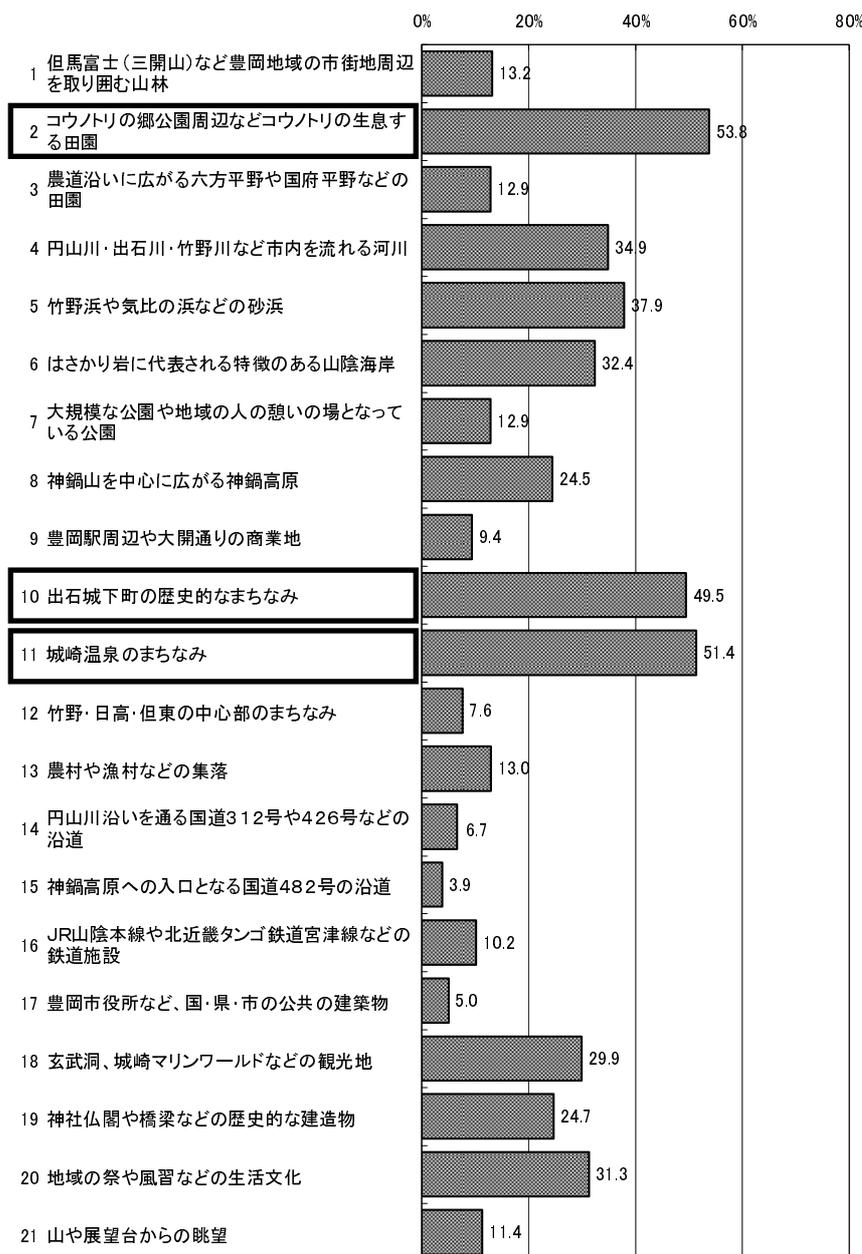
7)“豊岡らしい景観資源”として今後も守り育てていきたい資源

アンケート回答者全体の“豊岡らしい景観資源”として今後も守り育てていきたい資源に対する回答は、“コウノトリの郷公園周辺などコウノトリの生息する田園”の53.8%“城崎温泉のまちなみ”の51.4%“出石城下町の歴史的なまちなみ”の49.5%がほぼ過半数を占めています。

以下、“竹野浜や気比の浜などの砂浜”37.9%、“円山川・出石川・竹野川など市内を流れる河川”34.9%、“はさかり岩に代表される特徴のある山陰海岸”32.4%、“地域の祭や風習などの生活文化”31.3%となっています。

①守り育てていきたい資源

N=932



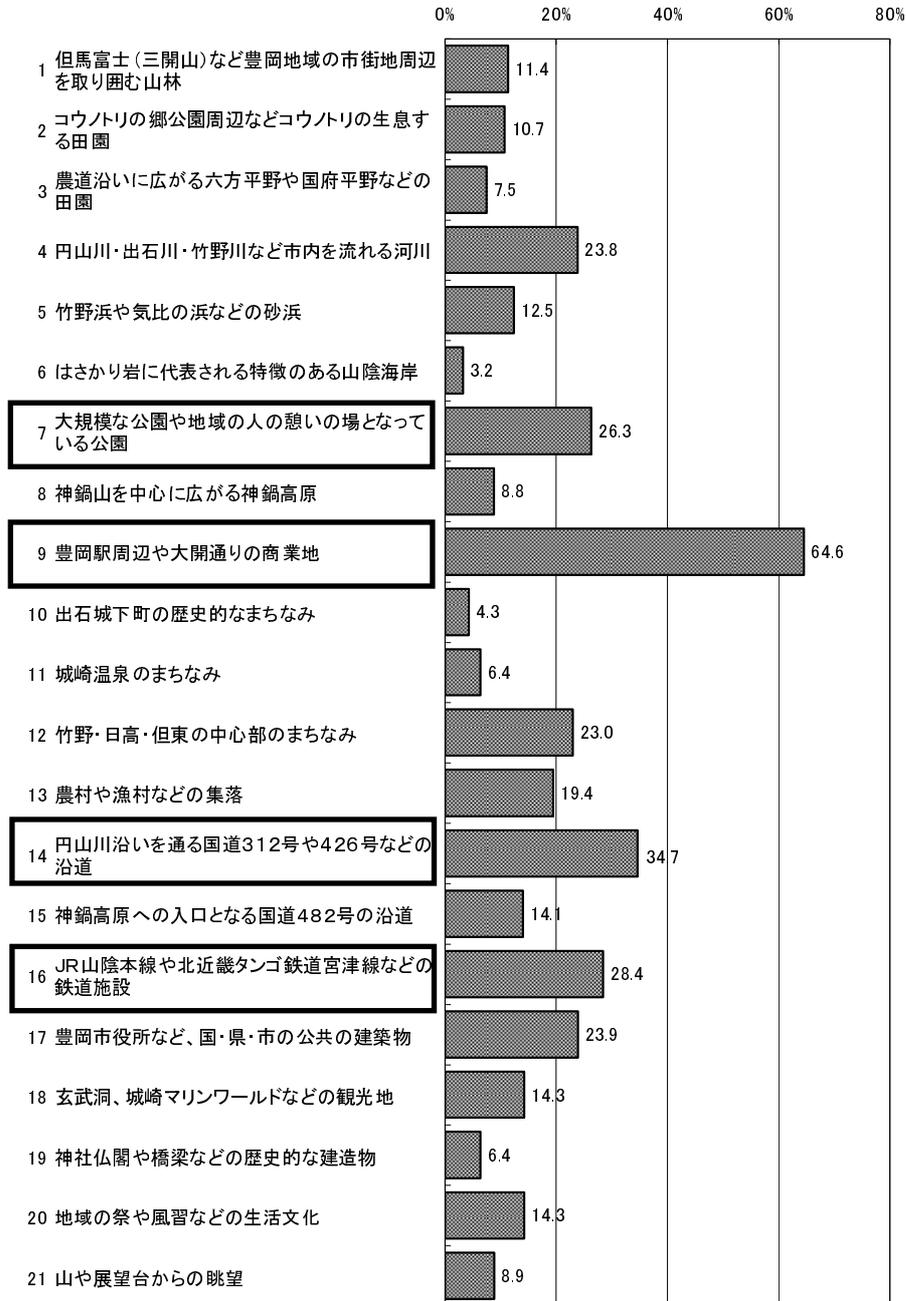
8) “豊岡らしい景観資源”として改善していくべき資源

アンケート回答者全体の “豊岡らしい景観資源”として改善していくべき資源に対する回答は、“豊岡駅周辺や大開通りの商業地”が64.6%と突出しています。

次いで“円山川沿いを通る国道312号や426号などの沿道”が34.7%、“JR山陰本線や北近畿タンゴ鉄道宮津線などの鉄道施設”が28.4%、“大規模な公園や地域の人の憩いの場となっている公園”の26.3%が25%以上の意見となっています。

②改善していくべき資源

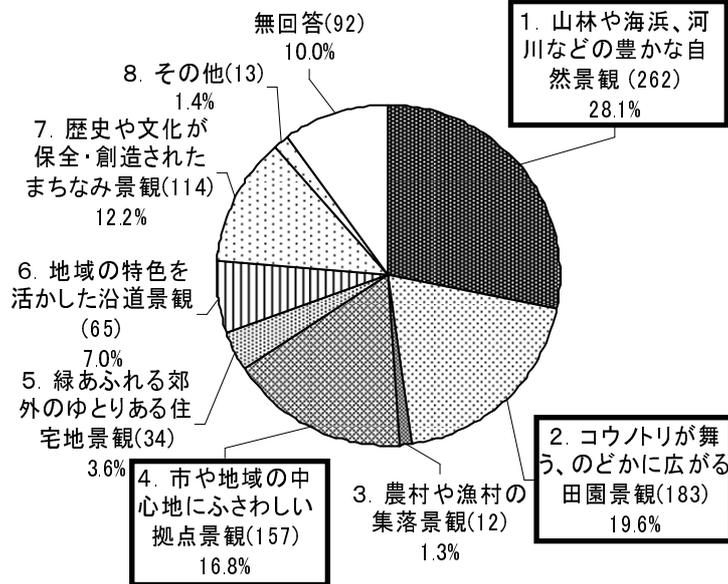
N=932



9)豊岡市全体豊岡市全体としての将来の景観として大切なもの

① 豊岡市全体としての将来の景観

アンケート回答者全体の豊岡市全体としての将来の景観について大切なものに対する回答は、“山林や海浜、河川などの豊かな自然景観”が28.1%と最も多く、次いで“コウノトリが舞う、のどかに広がる田園風景”が19.6%、“市や地域の中心地にふさわしい拠点景観”が16.8%、“歴史や文化が保全・創造されたまちなみ景観”が12.2%となっています。



N=932

② あなたがお住まいの地域の将来の景観

竹野地域の“山林や海浜、河川などの豊かな自然景観”、城崎地域ならびに出石地域の“歴史や文化が保全・創造されたまちなみ景観”がそれぞれ他地域より10%以上高い傾向を示しています。

地域別の回答数の上位を見ると、豊岡地域では“緑あふれる郊外のゆとりある住宅地景観”、城崎地域、出石地域では“歴史や文化が保全・創造されたまちなみ景観”、竹野地域、但東地域では“山林や海浜、河川などの豊かな自然景観”、日高地域、但東地域では“地域の特色を活かした沿道景観”が上位を占めています。

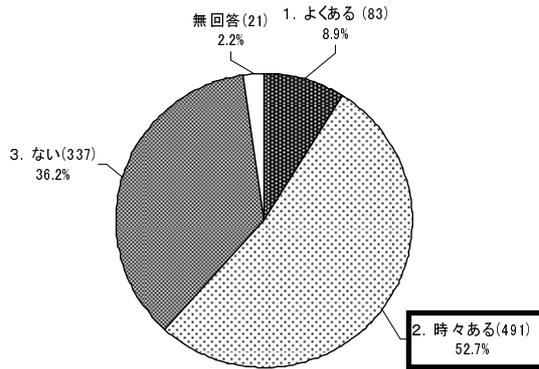
	調査数	山林や海浜、河川などの豊かな自然景観	コウノトリが舞う、のどかに広がる田園景観	農村や漁村の集落景観	市や地域の中心地にふさわしい拠点景観	緑あふれる郊外のゆとりある住宅地景観	地域の特色を活かした沿道景観	歴史や文化が保全・創造されたまちなみ景観	その他	無回答
全体	932	163	88	65	110	142	123	131	4	106
比率(%)	(100.0)	(17.5)	(9.4)	(7.0)	(11.8)	(15.2)	(13.2)	(14.1)	(0.4)	(11.4)
豊岡地域	412	48	74	16	78	87	48	18	3	40
比率(%)	(100.0)	(11.7)	(18.0)	(3.9)	(18.9)	(21.1)	(11.7)	(4.4)	(0.7)	(9.7)
城崎地域	66	10	1	1	8	2	10	28		6
比率(%)	(100.0)	(15.2)	(1.5)	(1.5)	(12.1)	(3.0)	(15.2)	(42.4)		(9.1)
竹野地域	68	41	1	10	3	5	3			5
比率(%)	(100.0)	(60.3)	(1.5)	(14.7)	(4.4)	(7.4)	(4.4)			(7.4)
日高地域	201	41	6	20	15	32	41	19	1	26
比率(%)	(100.0)	(20.4)	(3.0)	(10.0)	(7.5)	(15.9)	(20.4)	(9.5)	(0.5)	(12.9)
出石地域	112	9	4	9	3	5	8	57		17
比率(%)	(100.0)	(8.0)	(3.6)	(8.0)	(2.7)	(4.5)	(7.1)	(50.9)		(15.2)
但東地域	70	14	2	9	2	11	13	8		11
比率(%)	(100.0)	(20.0)	(2.9)	(12.9)	(2.9)	(15.7)	(18.6)	(11.4)		(15.7)
無回答	3				1			1		1
比率(%)	(100.0)				(33.3)			(33.3)		(33.3)

全体と比較して5%以上高いもの
全体と比較して10%以上高いもの

10)屋外広告物の不快感について

アンケート回答者全体の屋外広告物の不快感に対する回答は、“時々ある”が52.7%と過半数以上を占め、次いで“ない”が36.2%となっている。

“よくある”“時々ある”を合計すると約60%が屋外広告物に対して不快感があると感じています。

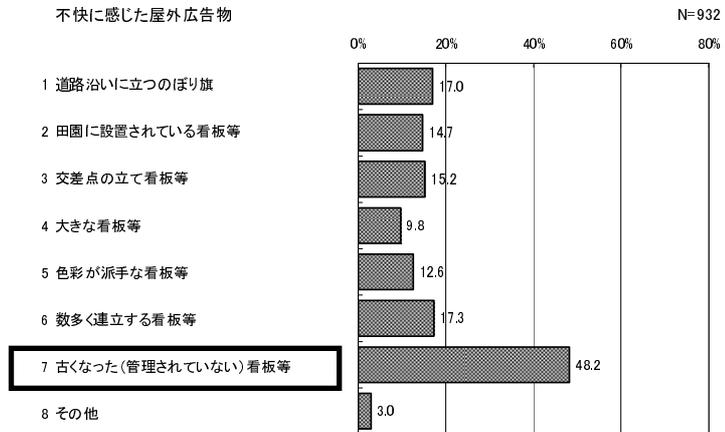


N=932

11)不快に感じた屋外広告物について(前問で1, 2を選択)

不快に感じた屋外広告物

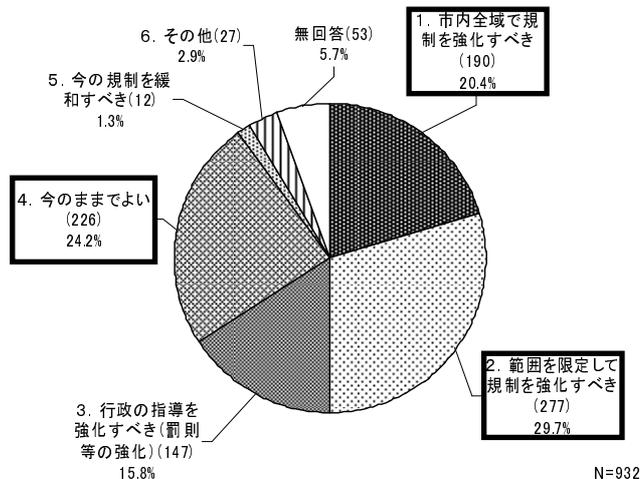
アンケート回答者全体の不快に感じた屋外広告物に対する回答は、“古くなった(管理されていない)看板等”が48.2%と5割弱を占め、次いで“数多く連立する看板等”の17.3%、“道路沿いに立つのぼり旗”の17.0%となっています。



N=932

12)今後の屋外広告物の規制について

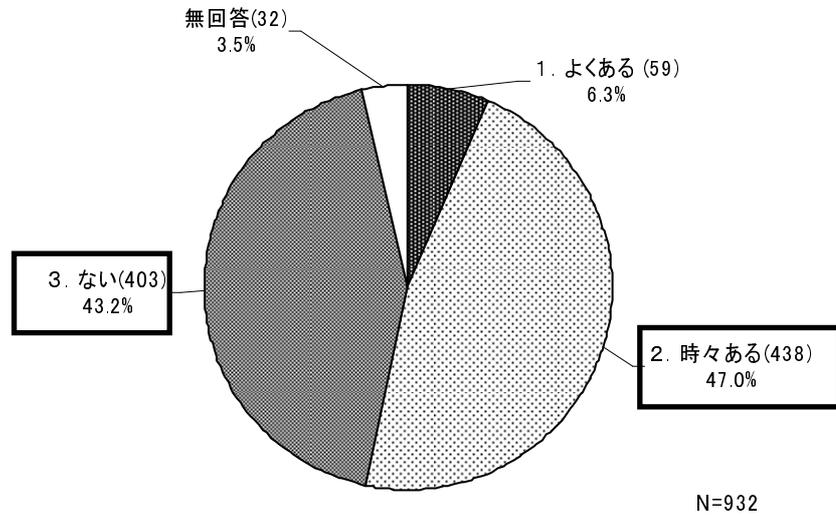
アンケート回答者全体の今後の屋外広告物の規制の必要性に対する回答は、“範囲を限定して規制を強化すべき”が29.7%と最多であり、次いで“今のままでよい”の24.2%、“市内全域で規制を強化すべき”の20.4%となっています。



N=932

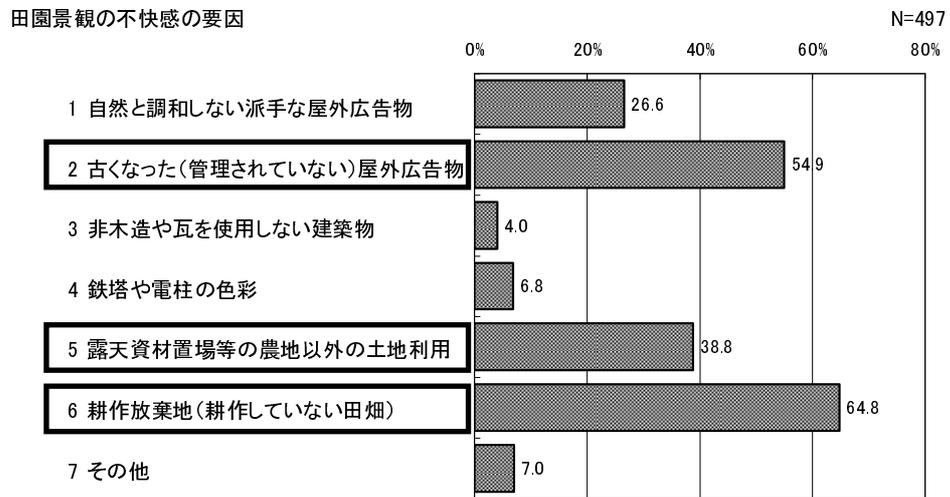
13) 田園景観への不快感について

アンケート回答者全体の田園景観への不快感に対する回答は、“時々ある”が47.0%とほぼ過半数を占める一方、“ない”は43.2%となっています。



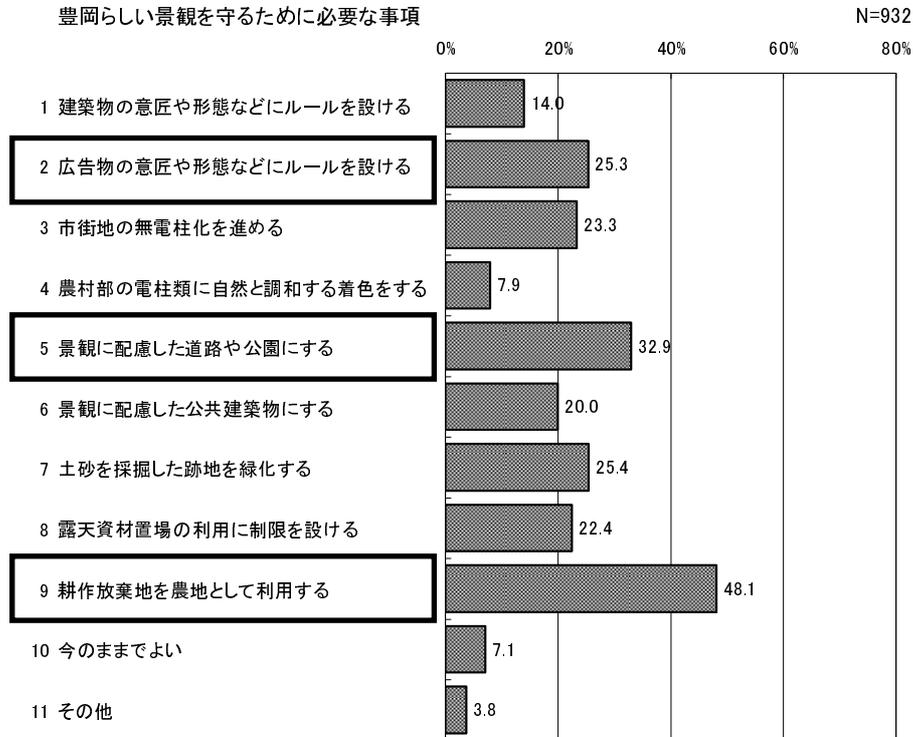
14) 田園景観の不快感の要因(前問で1, 2を選択)

アンケート回答者全体の田園景観の不快感の要因に対する回答は、“耕作放棄地（耕作していない田畑）”が64.8%と最多であり、次いで“古くなった（管理されていない）屋外広告物”の54.9%、“露天資材置場等の農地以外の土地利用”の38.8%となっています。



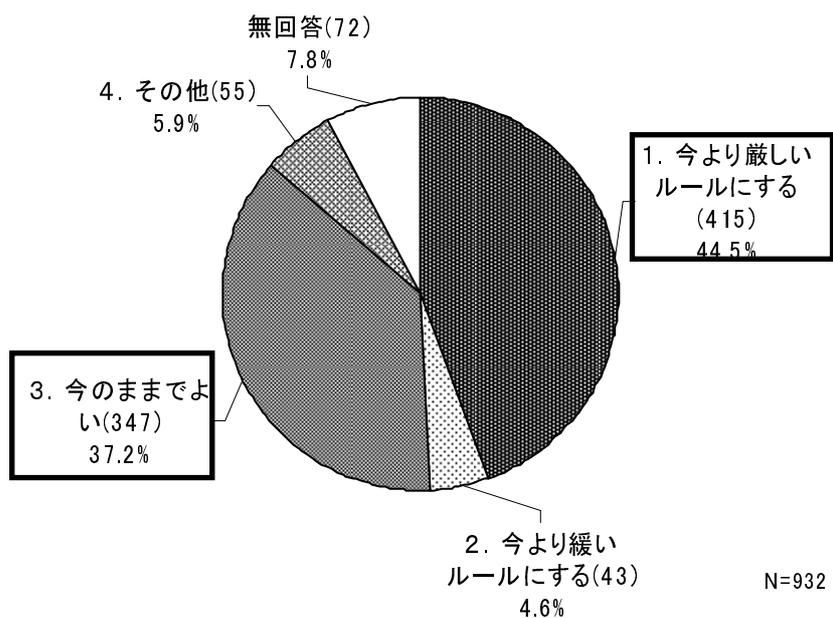
15)豊岡らしい景観を守るために必要な事項(複数回答)

アンケート回答者全体の豊岡らしい景観を守るために必要な事項に対する回答は、“耕作放棄地を農地として利用する”が48.1%と過半数近くを占め、次いで“景観に配慮した道路や公園にする”の32.9%、“広告物の意匠や形態などにルールを設ける”の25.3%となっています。



16)景観ルールを市内全域に設ける場合の規制について

アンケート回答者全体の景観ルールを市内全域に設ける場合の規制に対する回答は、“今より厳しいルールにする”が44.5%であり、次いで“今のままでよい”の37.2%、“今より緩いルールにする”の4.6%となっています。



17) アンケートのまとめ

① 豊岡らしい景観づくりへの取組みについて

豊岡らしい景観を守り育てることに対して、過半数を大きく上回る約7割(“とても関心がある”(22.2%)+“やや関心がある”(47.2%))が関心を持っており、景観づくりに対する関心の高さが伺えます。特に、城崎地域では“とても関心がある”の割合が約4割と、市全体と比較して「豊岡らしい景観を守り育てること」に対する関心の度合いの高さが伺えます。

「景観をつくっていくためのルールづくりの必要性」については、“新たな取組みを進めることが必要”が過半数を占めているほか、“規制やルールを厳しくすることが必要”が1割程度を占めており、今後の景観形成に向けた新たな規制誘導方策の導入等について、一定の理解が得られているものと考えられます。

② 豊岡市の地域資源・まちの状況について

豊岡らしい景観資源として今後も守り育てていきたい資源として“コウノリの郷公園周辺などコウノリの生息する田園”“城崎温泉のまちなみ”“出石城下町の歴史的なまちなみ”がそれぞれほぼ過半数を占めており、コウノリの生息環境の維持・保全とともに、温泉街や歴史的まちなみの保全に対する意向が高いと考えられます。

一方、改善が必要な資源としては“豊岡駅周辺や大開通りの商業地”が約6割を占めており、市の玄関口としての景観の改善に対する意向が特に高いと考えられます。

③ 豊岡市の将来の景観について大切なこと

豊岡市の将来の景観について大切なものとして“山林や海浜、河川などの豊かな自然景観”が最も高く約3割を占めるほか“コウノリが舞う、のどかに広がる田園風景”が約2割を占めており、自然景観の保全と共に、コウノリと共生可能な田園景観の保全に対する意向が高いと考えられます。

④ 屋外広告物(のぼり旗・看板等)について

屋外広告物に対する不快感の有無について“よくある”“時々ある”の合計が約6割という結果となっています。なかでも、“古くなった(管理されていない)看板等”に対する不快感が約半数を占めており、屋外広告物の維持に関する基準導入に対する意向が高いと考えられます。

屋外広告物の規制の必要性については、“範囲を限定して規制を強化すべき”が約3割、“市内全域で規制を強化すべき”が約2割と、屋外広告物に対する規制誘導方策の導入に対する意向が高いと考えられます。

⑤ 田園景観について

田園景観に対する不快感の有無について“よくある”“時々ある”の合計が約5割という結果となっています。

なかでも、“耕作放棄地(耕作していない田畑)”“古くなった(管理されていない)屋外広告物”がそれぞれ過半数を占めており、田園景観における、営農環境の維持と共に、屋外広告物に対する規制の強化の必要性が高いと考えられます。

⑥ 景観を守るために必要な今後の方向性について

豊岡らしい景観を守るために必要な事項について“耕作放棄地を農地として利用する”が約5割を占めるほか“景観に配慮した道路や公園にする”“広告物の意匠や形態などにルールを設ける”が約3割と、田園環境の保全に対する意向が特に高いと考えられます。

景観ルールを市内全域に設ける場合“今より厳しいルールにする”“今のままでよい”がそれぞれ約4割と景観ルールの導入に当たっては対象とする地区、ルールの内容について十分な議論が必要と考えられます。

4 用語の解説

あ行

アイストップ

まちかどなどにある建築物や樹木といった、人の視線を引きつける役割を果たす対象物をいう。

か行

コウノトリ育む農法

おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法(安全なお米と生きものを同時に育む農法)のこと。水田の水管理や減農薬、素掘り水路の設置などの技術を取り入れ、コウノトリの餌となる生き物を育む。

さ行

自然公園法

優れた自然の風景地の保護しつつ、その中で自然に親しみ、野外レクリエーションを楽しむことができるように、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園の3種類に体系化して、それぞれの指定、計画、保護規制等について規定した法律。

シークエンス

走行する車両や徒歩などでの移動により、視点が移動して次々に移り変わる一連の行動として体験する連続的な景観変化をいう。

シースルーシャッター

素材にアクリルや金属パイプなどが用いられた透過性のあるシャッターのこと。

休日(商店街の)・夜間の商店などでのウインド・ショッピングなどが可能となる。

漆喰

消石灰に麻糸などの繊維質、膠着剤、砂や

粘土を加え水で練ったもので、壁の上塗りなどに用いられる。

重要伝統的建造物群保存地区

城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存を図るために市町村が決定し都市計画もしくは条例により定める伝統的建造物群保存地区について、国が市町村からの申出を受けて価値が高いと判断したものを選定する。

スカイライン

空を背景に、山や建築物などが空を区切って作る輪郭線や地平線のこと。

世界ジオパーク

ジオパークの活動は2004年にユネスコの支援により設立された、世界ジオパークネットワーク(GGN)により取り組まれているもので、地球科学的に見て重要な特徴を複数有するだけでなく、その他の自然遺産や文化遺産を有する地域が、それらの様々な遺産を有機的に結びつけて保全や教育、ツーリズムに利用しながら地域の持続的な経済発展を目指す仕組み。

登録には、「場所」だけでなく、そこで行われている活動(例えば教育プログラム、ガイド養成、地域振興策など)や、運営組織も重視されている。

セットバック

敷地や道路の境界線から後退して建物を建てること。

た行

柱状節理

岩体に入った柱状の割れ目。マグマが冷却固結する際、収縮して生じる。玄武岩では六角

柱ができることが多い。

沖積低地

主に河川による堆積作用によって形成されたる平野。河川の流速が減じて運搬された土砂が氾濫原や河口、さらに沖合にかけて堆積して平野となる。

は行

ハーフトインバー

西洋木造建築の一手法で、柱、梁、筋違(すじかい)、間柱、窓台など軸組みとなる部分を外観に現し、その間を煉瓦で充てんしたり、白いスタッコ塗りに仕上げたもの。

瀑布

高いところから白い布を垂らしたように直下する水の流れ。

ピオトープ

さまざまな野生生物が生息し、自然の生態系が機能する空間のこと。最近では、人工的につくられた、植物や魚、昆虫が共存する空間を呼ぶことが多い。

俯瞰

高いところから見下ろし、眺めること。

ま行

マンセル色票(表色)系

マンセル表色とは、アメリカの美術家、アルバート・H・マンセル(1858～1918)が考案した色彩表現体系で、その数値を「マンセル値」と呼ぶ。

マンセル表色は、系統的に整理し記号化されたもので、色相・明度・彩度のそれぞれ独立した色の性質(三属性)によってひとつの色を表示する事が可能

や行

養蚕

蚕を飼い育て、繭(まゆ)をとること。

ら行

ラムサール条約

イランのラムサールで、1971年に採択された国際条約「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」の通称。湿地の保全や賢明な利用(ワイズユース=wise use)を進めることを目的とする。登録対象となる区域は湿原のほか、湖・溪流・浅い海などの水域も含まれる。日本は1980年(昭和55年)に加盟。国際湿地条約。

ランドマーク

特定地域の景観を特徴づけ目印となるもので、一際目立ち意識されやすい山や高層建築物など。

リアス式地形(海岸)

起伏の大きい山地が、地盤の沈降または海面の上昇によって、海面下に沈んで生じた地形のこと。一般に海岸または山地の迫った半島と、その間に挟まれた谷とが直交し、鋸歯(きょし)状の海岸を形成する。

陸繋島

陸の近くにあった島が、浸食されてできた砂や礫、河川から流れ込む土砂によって堆積したため、陸地と連結してしまったもの。

ロードサイド

幹線道路など通行量の多い道路の沿線のこと。自家用車などでのアクセスを主とした大規模な店舗が立地する場合もあり、これらをロードサイドショップ(店舗)ともいう。

